

成分名	カゼイン製ペプトン
英 文	Peptone, casein
CAS No.	—
収載公定書	—

投与経路	用途
皮下注射	安定化剤
舌下に適用	賦形剤

以下については該当文献なし

1. 単回投与毒性
2. 反復投与毒性
3. 遺伝毒性
4. 癌原性
5. 生殖発生毒性
6. 局所刺激性

7. その他の毒性

抗原性

スキムミルクから分離した β カゼインをトリプシンで加水分解したリン蛋白質(CPP)、スキムミルク、 β カゼインをそれぞれアジュバントとともにSD系ラットに $170\mu\text{g}$ を腹腔内投与(誘導)した後、誘導後2および3週後に得られた血清を用いて間接ELISA法により抗体産生量を比較した結果、 β カゼイン誘導では、 β カゼイン特異的IgG、CPP特異的IgGおよびスキムミルク特異的IgGの産生量が有意に高かった。CPP誘導では β カゼイン、スキムミルクに対する交叉反応は見られず、CPPは β カゼインよりも抗原性が減弱しているものと考えられた。¹⁾ (Heddleson et al., 1997)

8. ヒトにおける知見

該当文献なし

引用文献

1) Heddleson RA, Park O, Allen JC. Immunogenicity of casein phosphopeptides derived from tryptic hydrolysis of beta-casein. J Dairy Sci. 1997 Sep;80(9):1971-6.